

(仮称)第3図書館 貸出業務等の 指定管理者制度導入は

問

平成23年4月に開館する(仮称)第3図書館の運営のうち、併設する市民ホールの管理と、貸出業務について、指定管理者制度の導入が示されている。他自治体では、地域図書館などを指定管理者で運営し、規模の大きい中央図書館を直営とする形が主流であり、今回のように、指定管理業務を図書館業務の一部に留める計画に疑問を感じている。

そこで、第3図書館への指定管理者制度導入と上河内、河内及び東図書館への指定管理者制度導入について、所感を伺う。

答

(仮称)第3図書館の業務のうち、全国的にトップレベルにある「児童生徒の読書活動や学習に資する資料提供等の学校支援」や、国や県、大学等関係

機関が持つ資料情報を活用した「市民への様々な支援」など、本市が高いノウハウやネットワークを持つ専門的業務については、サービス水準の維持向上のためにも、直営で実施したいと考えている。

一方、貸出・返却・予約等の業務や、特色の一つであるホール等の運営、飲食施設の誘致等については、指定管理者制度の導入により、一体的・包括的に委ねる効果が十分に期待できるものと考えている。また、上河内、河内及び東図書館における今後の指定管理者制度の導入については、各図書館の特色や役割を踏まえ、(仮称)第3図書館での実績などを見ながら、段階的に導入を進めていく。



子宮頸がん予防ワクチンの 公費助成は

問

子宮頸がんは、予防ワクチンが、昨年末に承認・販売されたが、若い女性に爆発的に増えており、年間約1万5千人が罹患し、3千5百人が亡くなっている。

このがんは、予防ワクチンの投与と検診で、ほぼ100%予防できるが、若い女性がそれを知らず、検診すら受けていない現状は社会の責任である。

そこで、次の3点について、見解を伺う。
①女性が正しい知識を持ち、自己決定する権利を保障するための行政の役割は。
②小中学校での性教育に子宮頸がん予防を位置づけては。
③子宮頸がん予防ワクチンの公費助成は。

答 ①男女が自分の人生と健康を自己決定することは大変重



▲子宮頸がん 啓発リボン

要であることから、本市では、性と健康に関する正しい情報の提供や女性のライフステージに応じた健康支援等に取り組んでいる。引き続き、男女が自己決定に基づき、健康な生活を営めるよう支援していく。

②子宮頸がんは、早期予防が有効であると言われているが、児童生徒への指導に際し、どのような内容を指導するかなど、国の方針が示されていないことから、今後の動向を踏まえ関係機関等と連携を図りながら、調査研究していく。
③現在、国において公費負担の検討が行われていることから、国の動向などを踏まえながら、公費助成のあり方について検討していく。

緑のカーテンで 低炭素社会を構築

問

低炭素社会の構築のために、次の2点を提案し、見解を伺う。
①CO₂削減策として、公共施設をはじめ、学校

さらには事業所や家庭も含めた、緑のカーテン事業の推進を提案する。
②公共施設や学校間のエネルギー消費量の比較をすることで、エネルギーの消費の節約を実践し、大きな効果を上げている例もあり、本市においても、施設間のエネルギー見える化を進めるべきと考えるが、どうか。

答

①本市では、地球温暖化対策や市民の緑化に対する意識啓発を目的として、多くの市民に利用される47か所の公共施設において、緑のカーテン事業に取り組み、その効果を周知している。今後は、ホームペー

ジの充実などにより、緑のカーテンの有効性や育て方などを市民や事業者者に周知し、さらなる普及・啓発に努めていく。

②平成22年4月から施行される「エネルギーの使用の合理化に関する法律」により、学校を含むすべての市有施設のエネルギー使用量の調査と削減計画の策定が必要となり、その結果、施設間のエネルギー消費量の比較が可能となることから、これらのデータを有効に活用し、エネルギーの見える化などを進め、全庁的なエネルギーの削減を図っていく。



▲ゴーヤを利用した緑のカーテン